



在仏日本人会 会報 N°320 2026年 7月・8月号

JOURNAL JAPON



日本人会女声コーラス「みもざ」 40周年記念演奏会のご報告

パリ日本人学校がパリ市内に所在していた当時、有志の保護者により結成されたママさんコーラスが前身となり、1986年、日本人会のクラブ活動として女声コーラス「みもざ」は誕生いたしました。おかげさまで、今年で40周年を迎えることができました。

これまでの歩みを振り返り、支えてくださった皆様への感謝を込めて、6月14日に「みもざ」創設40周年記念演奏会を、マレ地区のアルメニア教会にて開催致しました。当日は満席のおお客様をお迎えし、OECD安藤大使ご夫妻をはじめ、日本人会片川会長、理事の皆様にもご臨席を賜り、大盛況のうちに終えることができました。演奏会では、4名の声楽ソリストと6名の器楽奏者をお迎えし、第一部ではモーツァルトの「戴冠ミサ (KV317)」を演奏致しました。第二部では、将来有望な日本人若手音楽家達によるソロ演奏を交えつつ、「春の海」やジブリの名曲、そして「島唄」や「大地讃頌」といった心に響く日本の曲を披露いたしました。

若い音楽家の皆様との共演は、私達にとっても大変刺激的で貴重な機会となりました。

終演後のアンコールでは、出演者全員と会場の皆様で「ふるさと」を合唱いたしました。教会いっぱいに響き渡る皆様の歌声に包まれ、大変感動的なフィナーレとなりました。

この演奏会に向け、熱心にご指導くださった指揮者の寛明絵先生、素晴らしい伴奏と演奏をして下さったピアニストの高尾明子さんに、心より感謝申し上げます。また、共に素晴らしい舞台を作り上げて下さった音楽家の皆様、お忙しい中ご来場いただいた全ての皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

女声コーラス「みもざ」は、これからも皆様の心に届く演奏を目指して、歩んで参りたいと思います。今後とも変わらぬお引き立ての程、どうぞ宜しくお願い致します。

なお、「みもざ」では現在、一緒に活動して下さるメンバーを募集しております。ご興味のある方は、ぜひ下記のメールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

女声コーラス「みもざ」一同
mimosafrance@gmail.com

次頁フォトギャラリー →

ご帰国の方

ご着任の方

ZOOM会議・要予約

引越しセミナー

7/7(火)9/15(火) 10-12時

ハウスクリーニング、ワイン輸送
引越免税、解約手続きなど



Welcomeセミナー

9/10(木) 10-12時

経験豊富なスタッフが
生活に役立つ情報をご案内!

☀️☀️夏も休まずカレンダー通り営業!☀️☀️

至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp

☎ 01-4058-1000
✉ sales@transeuro.jp



「みもぎ」40周年記念演奏会フォトギャラリー



モーツァルト「戴冠ミサ (KV317)」



「春の海」



フルート・オーボエ



アンコール「ふるさと」

新刊紹介

『パティシエールまたは連れ去り犯の言い分』

パリュス あや子



「君を『連れ去り』で訴える」――六月に「子供の連れ去り」をテーマにした長編小説を刊行しました。フランスでは外国人妻（特に日本人妻）がフランス人夫と別れた後、子供を連れて自分の国に戻ってしまう問題はよく話題にされますが、日本ではほとんど知られていないように思います。

私がこの問題に深く関心を持つようになったのは、在仏日本人会会報で紹介

していた「France 2」制作のドキュメンタリー番組を見てからです。日本人妻に連れ去られた子供と会うために、二人のフランス人の父親が日本まで出かけていくもので、胸の抉られる内容にショックを受けました。

父子が再び笑顔で対面できる日を祈るばかりですが、一方でフランス人と結婚して子供を授かり、フランスで暮らす日本人妻として、連れ去りをした妻が「絶対悪」として描かれる構造を恐ろしくも思いました。もちろん「子供の連れ去り」を肯定はしませんが、そこまで追い込まれてしまった日本人妻の「言い分」もあるのではないかと...というのが本作を書くきっかけでした。

四年ほど前に小説の構想を始め、親権や連れ去りに関する資料や記事などを読みながら、フランスで子育てをしている日本人のお母さん方の知見や日本人会の法律相談で弁護士のお話を伺ってきました。この繊細で複雑なテーマをどのように描けばよいのかずいぶん悩みましたが、「子供の連れ去り」は国際結婚だけで起きることではなく、日本国内でも長らく問題になっていたことで、全ての家族に関わる「ごく身近な話」なんだという思いを新たに、普遍的な「家族の物語」にしたいと考えました。

フランスでは離婚した両親のそれぞれの家を行き来している子供と少なからず会います。そしてそれがごく自然に行われ、子供も順応しているように感じられます。子育ての方針は各家庭で異なり正解は存在しませんが、私は共同親権には賛成で、DVなどの問題がない夫婦は別れた後も共に子供の成長を見守り支援していくべきだと考えています。様々な意見があると思いますが、日本でも共同親権になったタイミングで「家族の形」について思いを巡らす作品になればと願っています。

『パティシエールまたは連れ去り犯の言い分』概要

娘とともに日本、実家の横浜に戻り、フランス人夫との連絡を断って一年。ある日、妻の元に届いた一本のメールには「KIDNAPPING(連れ去り)」の文字が。念願のパリでのパティシエール修業。運命と信じて疑わなかった夫との出会い。フランスでの出産。少しずつ破綻してゆく生活。小学校入学を控えた娘の進路――。

妻に持ち込まれたケーキコンクールへの参加が、そのすべてを混ぜ合わせ、避けてきた夫と向き合うことを決意させる。娘と母。母と夫。夫と娘。日本とフランス。さまざまな親子がすれ違いながら描かれる、「家族」のありかたを問う物語。



パリュス あや子 (ぱりゅす・あやこ)

神奈川県横浜市生まれ、フランス在住。広告代理店勤務を経て、東京藝術大学大学院映像研究科・脚本領域に進学。『隣人X』で第14回小説現代長編新人賞を受賞、2023年に映画化された。他の著書に『燃える息』、『アレアレ!』、『パリと本屋さん』。



パリ日本語補習校、今年度も無事、終了致しました事、皆様にご報告させていただきます。
5月、6月と記録的な暑さに見舞われましたが、幸いにも教室にはエアコンが設置されており、授業は平常通り行事が出来ました。本当に良かったと思っております。
さて、これから長いヴァカンスですが、楽しく、充実した日々を過ごされる事を願っております。
しっかりと勉強もして下さいね！ 飯田隆一

皆様、今年度もありがとうございました。
暑いのは辛いですが、熱波のフランスで日本の夏が恋しくなりました。毎年うだるような暑さの日本ですが、涼しく暮らす工夫も多いと思いました。そうめん、ざるそば、かき氷、ところてん、すいかなど夏バテしていてもおいしく食べられるものがあります。打ち水すると涼しくなるし、風鈴は気温を下げないけど、涼しい気分してくれます。ああ、あずきパーやガリガリ君も食べたいなあ。廣重幸美

今年度、補習校は20年目を終えました。開校以来の者として、2人の校長先生、運営委員の方々、日本人会事務局、ホームページ担当の熊川様、にお礼申し上げます。
この学校を彩る個性豊かな子供達と、後ろで支えて下さる保護者の方々にも感謝します。
教師間も、互いの授業を尊重し、常に助け合う、最強のチームです。私個人としては、この20年間、1度も休まず、子供達の前に立てたことを、静かに喜びたいと思います。この個性溢れるユニークな学校が、より豊かに長く続くよう、祈ります。 ワイルド令子

楽しい夏休みがやって来ましたね。みんなもいろいろな計画があることと思います。フランスは夏休みが長いので、いっぱい遊んで宿題も！がんばって下さいね。夏休みの間にしてほしいことは音読です。勉強した教科書でもいいし、好きな本でもいいです。毎日続けたりびっくりするくらい読めるようになります。9月からの授業でも自信が持てると思います。2026年の夏、心に残る思い出をたくさん作って下さいね。9月に会いましょう。 浜田喜代香

授業へ向かう地下鉄の中で、その日の授業の流れを思い浮かべます。「ここで、こんな質問や発言があるかも。そうしたら、私はどう応えようかな。」などと考えています。それは濃密で、楽しくて、ワクワクする時間です。こんなにワクワクする気持ちになれるのは、週に一度、教室で会えるみんなのおかげです。みんな、いつもいっぱい発言してくれてありがとう！いっぱい質問してくれてありがとう！どうぞ良い夏を！！ 西岡 緑

1年間おつかれさまでした。生徒のみなさんは補習校とフランスの学校の両立は大変だったことでしょう。わたしも補習校で教えるのが1年目だったので、慣れるまで時間がかかりました。担当クラスの保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。
6月末は猛暑が続きました。夏のバカンス中も油断できないので、みなさん体調管理に気をつけて楽しく過ごしてください。また9月に元気に会いましょう！夏の間のお土産話を楽しみにしています。 島山友里



出版案内

アーネスト ファーウエストで はしるのが いちばん おそいうま

『物語は、小馬の「アーネスト」が苦手な競争なのに、それでも動物たちのレースに参加します。途中、大きな岩で道が塞がれ、困っているやぎおじさんをアーネストはレースそっちのけで手伝うのですが、、、』

2021年2月、世界中にフランス語で出版された「Ernest le cheval le plus lent du Far West」David CORNILLEAU 著 の絵本を作者の意図を汲み、日本語では「アーネスト ファーウエストで はしるのがいちばん おそいうま」にし、2026年4月8日にアマゾンから翻訳出版しました。

この絵本は現在社会の競争とは何か、仲間として参加する意義は、人助けとはなにか。そして、どんなに嘲笑されても、くじけず、何が自分にとって幸せを感じるかと言う疑問を投げかけてくれます。自分の持っている価値を自分だけは認めてあげようと心優しく、希望を与えてくれる素晴らしい作品になっています。

「誰にでもある劣等感や弱点を本当の勇氣に変え、自分らしくいられる、こんな絵本を待っていた」と、世界中からとても評価されています。

昨今は「AI」(Artificial Intelligence 人工知能)が幅を利かせていますが、まったく使用していません。フランス語の「le plus lent」は「最も遅い」と訳すところを、あえて日本では一番(いちばん)という言葉をつかったのは、それがビリの一番でも構わないからです。また、擬音、擬態語などを『オノマトペ』と言いますが、フランス語では「s'esclaffent = ぷつと笑う、大いに笑う」ところを「ゲラゲラ笑う」と分かりやすく翻訳しました。文が読みやすく、オノマトペの持つ不思議な魅力は子供たちに豊かな情緒を与えてくれると信じています。

作者は幼い子供が自ら簡単に読めるようにすべての文字をひらがなで、分かち書きを希望しました。訳には忠実でありながらナレーションの言葉は「です・ます調」の敬体を用いて丁寧に、そしてどんな言葉が最もやさしく大切だろうと考えました。

子供にも、大人にも、世知辛い世の中の今だからこそ、この物語を心から楽しんで頂けることを切に望んでいます。
(翻訳者：小畑リアンヌ)

日本で検索の場合は amazon.jp
小畑リアンヌ <https://amzn.asia/d/OaCBBnfa>
フランスで検索に場合は amazon.fr
rienne obata <https://amzn.eu/d/07zns7YR>



パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2026年7月10日～10月31日)

パリ日本文化会館 事業案内

【展示】

北井一夫 日常礼賛～日本を見つめた60年

Kazuo Kitai, l'éloge du quotidien - Soixante ans à photographier le Japon

開催期間：4月30日(木)～7月25日(土) 会場：2階展示ホール

参加費：一般5€、割引・会員3€

内容：日本を代表する写真家のひとりでありながら、欧州で紹介される機会が少なかった北井一夫(1944年生まれ)のキャリアを通覧するフランスではじめての大規模個展。成田闘争など1960年代当時の社会を象徴する事件を独自の世界観で内側から写した初期の作品から、失われていく日本の農村の原風景を求めた中後期の作品まで、常に時代と向き合い続けてきた北井ならではの視点を紹介。

相撲、神秘なる力くらべ Sumo, forces sacrées

開催期間：6月9日(火)～9月26日(土) 会場：地上階ホール

入場自由・無料

内容：フランス人写真家・映像作家ブルーノ・アヴェイヤンが、鳴戸部屋に密着し、元横綱・琴歐洲勝紀の指導のもとで稽古に励む力士たちの姿を記録。力強さに偏りがちな相撲の従来のイメージから距離を置き、土俵での沈黙や呼吸、ひとつひとつの所作の美をカメラに収めた。本展は相撲における「力」と「美」の緊張関係を軸に、写真を通じて相撲を身体表現として再考する試み。

Five Views～日本の新進写真家～

開催期間：10月6日(火)～11月14日(土) 会場：地上階ホール

入場自由・無料

内容：新世代の写真家5組(The Copy Travelers、千賀健史、鈴木麻弓、南川恵利、宮地祥平)による展覧会で、パリ日本文化会館とT3 PHOTO FESTIVAL TOKYOの連携企画。震災の記憶や社会規範、身体表現、イメージの複製などをテーマに、各作家が独自の視点で社会との関係性を問いただす。本展は現代写真の新たな可能性を提示するとともに、「写真誕生200周年」記念事業として開催。

【公演】

JAPAN JAZZ NIGHT: Banksia Trio

日時：7月10日(金)20時～ 会場：小ホール

参加費：一般10€／割引7€／会員5€

内容：東京のジャズシーンを牽引する須川崇志(ベース)、林正樹(ピアノ)、石若駿(ドラムス)による実力派トリオ「Banksia Trio」によるコンサート。爆発的な即興演奏と、叙情的で繊細なアンサンブルを併せ持つ唯一無二のスタイルで、国内外から高い評価を受けている。2025年のオーストラリアツアーなどを経て、今夏は初のヨーロッパツアーを実施。日本の美意識を内包した力強く緻密なサウンドを披露。

Okina マキシム・キュルヴェルス

日時：9月24日(木)20時～、9月25日(金)20時～、9月26日(土)17時～

会場：大ホール 入場料：一般20€／割引18€／会員16€

内容：演劇人類学の探求で知られる演出家マキシム・キュルヴェルスによる本作では、女性が演じることを禁じられてきた能『翁』に、女優・板橋優里が挑む。仏教儀礼に属し、長らく男性のみで上演されてきたこの演目に対し、あえて正面から批判せず、新たな視点を提示することを試みる。板橋は、自身の言葉と舞踊を通してこの文化的タブーに向き合い、能以前の農耕社会における演劇への回帰や、現代に残る禁忌を問いただす。本作は、不可能を乗り越えようとする一人の女優のエンパワーメントでもある。

邦楽三曲公演

日時：10月3日(土)16時～ 会場：大ホール

参加費：一般20€／割引18€／会員16€

内容：三曲とは、尺八、三弦(または三味線)、箏からなる楽器編成と、その演奏曲目の両方を指します。今回のコンサートでは、山田流と生田流の優れた演奏家7名が、江戸時代の古典作品と、チャリック弦楽四重奏団との共演による世界初演作品を演奏します。生田流と山田流の二大流派が同じ舞台上で共演することも、このコンサートの大きな見どころ。

邦楽公演「おとの三井寺」

日時：10月10日(土)15時～ 会場：大ホール

参加費：一般20€／割引18€／会員16€

内容：1,200年以上の歴史を有する古刹・三井寺を舞台に、和歌、声明、能、邦楽、クラシック音楽、現代音楽など多様な表現と異なる思想を響き合わせ、単なるジャンル融合にとどまらない、音楽を通じて『平和の文化』の可能性を探ってきた「おとの三井寺」。出演は、人間国宝・能楽師の辰巳満次郎、謡・辰巳和磨、尺八・藤原道山、三井寺流声明衆、そして「おとの三井寺」芸術監督であり、パリで学んだクラリネット・吉田誠。観客を、文化や歴史の境界を越えた静謐な「響き」の体験へと誘う。

加藤拓也「ここが海」リーディング劇

日時：10月23日(金)20時～、24日(土)15時～ 会場：大ホール

参加費：一般10€、割引7€、会員5€

内容：加藤拓也は、日本の現代演劇・映像分野で注目される若手作家・演出家。会話のわずかなズレや沈黙を通して人間関係の奥行きを描き出し、国内外で高い評価を得ている。本作は、性別移行によって本来の自分として生きたいと告げられた家族を描き、「性の多様性」をめぐる現実と葛藤、当事者と周囲の人々のあいだに生じる「壁」と対話の可能性を問いかける。フランス人キャストと日本人キャストのダブルキャストで上演。

【映画】

「釣りバカ日誌」特集

日時：7月18日(土)、7月25日(土) 会場：小ホール 参加費：一般6€ / 割引・会員3€
内容：やまさき十三(作)・北見けんいち(画)による人気釣り漫画の実写映画シリーズ特集。1988年から2009年にかけて発表された全22作品の脚本は山田洋次が手がけ、主演の西田敏行と三國連太郎の名コンビは国民的人気を博しました。本特集では1話から7話、そして10話、11話、14話と、ほぼフランス初公開となる10作品を毎週土曜日に上映。

水曜日の名画座 花咲きて散りぬ

上映作品：松本俊夫『薔薇の葬列』(1969)

日時：7月15日(水) 会場：小ホール 参加費：一般6€ / 割引・会員3€

内容：月に一度、日本映画の珠玉の名作を上映する「水曜日の名画座」。春夏季のテーマは「花」。各回専門家による上映前作品紹介トーク付き。

【登壇：ステファン・デュ・メルド】

相撲映画特集

上映作品：『シコふんじやった。』『エノケンの髻の土俵入』『菊とギロチン』

日時：7月16日(木)、9月17日(木)、9月24日(木) 会場：小ホール

参加費：一般6€ / 割引・会員3€

内容：国民的なスポーツにとどまらず、日本文化の神髄を体現する相撲。本特集は、そうした伝統の土俵に立つ力士たちの姿をフィクションとドキュメンタリーの両面でお届け。

子ども・家族向けアニメ映画上映

実施日：10月24日(土)～31日(土) 会場：小ホール

参加費：3€/10人以上の子どもグループは無料

内容：内容：今回のアニメ上映は「お仕事」をテーマにお届け。

10月24日(土)「ジョゼと虎と魚たち」(仏語字幕)、「風立ちぬ」(仏語字幕)

10月28日(水)「ルックバック」(仏語字幕)

10月29日(木)「魔女の宅急便」(仏語吹替)「映画大好きポンポさん」(仏語字幕)

10月30日(金)「魔女見習いを探して」(仏語吹替)、「千年女優」(仏語字幕)

10月31日(土)「千と千尋の神隠し」(仏語字幕)、「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」(仏語字幕)

【講演会・セミナー・シンポジウム】

地政学講演会「安全保障の新たな次元：日本に求められる役割とは」

日時：9月19日(土)14時～16時 会場：小ホール

参加費：入場無料・予約制

内容：経済安全保障、サイバー脅威、宇宙領域、偽情報といった新たな安全保障課題に対する日本の立ち位置を、鈴木一人氏(東京大学公共政策大学院教授、地経学研究所長)とヴァレリー・ニケ氏(フランス戦略研究財団主任研究員)が分析。フランスをはじめとするパートナー国との協力関係を踏まえつつ、これらの課題に直面する日本の対応力を考察。

津波の木：畠山直哉一震災のあとで～

日時：10月3日(土)14時～16時 会場：小ホール 参加費：無料(事前予約制)

内容：2011年の東日本大震災から15年を経て、津波の痕跡は今なお深く残っています。写真家・畠山直哉氏は、一方は生い茂り他方は枯れたクルミの木との出会いをきっかけに、被災地の木々に目を向けるようになった。本講演では、写真集『Tsunami Trees』(「津波の木」)の刊行にあわせ、風景と向き合い続ける畠山氏の表現と活動を紹介するとともに、共同プロジェクト「Teiten」に取り組むティボー・オノレ氏をモデレーターに迎え、日仏での展覧会構想についても語り合う。

まなざしの変容 ～戦後から現代までの日本写真～

日時：10月6日(火)18時30分～ 会場：小ホール 参加費：無料

内容：戦後から現在に至るまで、技術的進展は写真表現のあり方を大きく変化させてきた。時代の流れのなかで、日本の写真は独自の変遷を重ね、多様な視覚的アプローチを発展させてきた。本講演では、本展「Five Views」のキュレーターである小高美穂が、フランス国立図書館(BnF)キュレーターのエロイーズ・コネザとともに、これらの変化の軌跡をたどりながら、日本の写真家たちがいかに多様な視点を提示してきたかを明らかに。

講演会&試飲会「日本映画と酒」

日時：10月8日(木)17時半～ 会場：小ホール 参加費：12€

内容：日本映画と日本酒は古くから密接に結びつき、多くの印象的な場面を生み出してきた。小津安二郎をはじめとする監督たちは、恋愛や喜劇などの中で日本酒を重要なモチーフとして描いてきた。本講演では、映像資料とともに名シーンを振り返り、映画監督・作家でソルボンヌ・ヌーヴェル大学教員のパスカル・アレックス・ヴァンサンがその魅力を解説。さらに、「Kura Master」出品酒約100種の試飲会も実施し、10周年の最高賞「プレジデント賞」受賞酒も特別に紹介。

「日本映画と酒」講演会の関連映画上映：

10月10日(土)：小ホール / 一律料金：3€

14h > 『お茶漬の味』(監督：小津安二郎、日本語音声・仏語字幕付き)

17h > 『浮雲』(監督：成瀬巳喜男、日本語音声・仏語字幕付き)

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (7月10日～10月31日) 続き

坂口安吾 生誕120年講演会～混乱の時代に生きた作家～

日時: 10月9日(金) 18時30分～20時30分 会場: 小ホール 参加費: 予約制無料
内容: 坂口安吾(1906-1955)は、日本文学史において特異な存在として知られる。『墮落論』や『白痴』、『不連続殺人事件』などの代表作を持ちながらも、フランスではいまだ十分に紹介されているとは言い難い。本対談では、混乱の時代において改めて注目される安吾の魅力とその多様な作品世界について、エステル・フィゴン氏およびエマニュエル・ロズラン氏が議論。

日本におけるグラフィックデザインーある世代の地図

日時: 10月16日(金) 18時～19時半 会場: 小ホール 参加費: 予約制無料
内容: 今日の日本において若い世代のグラフィックデザインへの関わりを、デモス・アレクサンドルがフィールドワークとインタビューを通じて分析。1970～90年生まれの約20名のデザイナーの作品とキャリアから、その世代像と役割を明らかにするとともに、日本の現代デザインの多様性に光を当てる。あまりフランスで紹介されてこなかった作品にも焦点を当て、成果はショーモンとチューリッヒでの展覧会、および2026年9月刊行予定の書籍で発表。

ベルナルド・フランク(1927-1996)を偲んで～日本研究先駆者の大いなる貢献～

日時: 10月17日(土) 14時30分～16時 会場: 小ホール 参加費: 予約制無料
内容: 日本文学研究に大きな足跡を残したベルナルド・フランク教授は、仏教の霊的側面から大衆文化まで幅広く探究し、日本文化の理解に貢献した学者。翻訳者としても知られ、日本の言語・文学の普及にも尽力。本講演では、6名の研究者がフランク教授の功績を振り返る。さらに講演後には、同教授が翻訳に関わったことで知られる映画『樫山節考』(今村昌平監督、1983年カンヌ映画祭パルム・ドール受賞)を上映。

【ワークショップ】

煎茶道の魅力-急須で淹れる日本の伝統の味

日時: 9月19日土曜日14時、16時 会場: レセプションホール (5階)
参加費: 30€

内容: 日本にはお抹茶のお茶道以外にも、急須で茶葉から丁寧に淹れ、季節の移ろいを感じながらその香りや味わいを楽しみ煎茶道が存在。この講座では日本茶の歴史、種類、製法、産地等のお話、そして煎茶道の紹介、デモンストレーションを行い、お煎茶、玉露、玄米茶、ほうじ茶と日本茶の味をお菓子とともに味わう。季節の趣向としては秋のお月見を予定。

子ども向け文化遺産の日

日時: 9月18日(金) 会場: 地上階 参加費: 予約制・入場無料
内容: ヨーロッパ文化遺産の日の前日に、CAUEおよびそのパートナー機関は、幼稚園から高校までの児童・生徒およびその教員を対象に、無料の活動プログラムを提供。2026年版は2026年9月18日(金)にフランス全土で実施され、当館は本事業に参加し、11時～12時、14時～15時、15時～16時の3回にわたり、各回30分の館内見学と30分の展覧会「相撲、神秘的な力くらべ」のガイド付き見学を組み合わせたプログラムを実施。

篆刻

日時: 9月26日土曜日13時、16時 会場: 教室2 参加費: 45€
内容: 篆刻は書道の一分野の、最も小さな芸術。古来より「方寸の世界に宇宙を宿す」と言われるように、ほんの数センチの小さな空間の中に壮大な世界が広がる。今回のワークショップでは篆書、またはかな文字で、お名前またはご希望の字を彫る。世界でひとつ、オリジナルの篆刻印は、作品や手紙にサインとして用いたり、本や持ち物に押したり、使い方はアイデア次第。さらに印面を守るための「はかま」も作る。

エコビレッジ「むら」を知ろう!

日時: 10月17日(土) 11時半、13時半、15時 会場: レセプションホール 参加費: 20€
内容: エコビレッジ「むら」は、2022年にセーヌ＝マルヌ県ラバル・アンプリで4人の日本人女性により設立されたプロジェクト。日本の伝統的な村の暮らしに着想を得て、食・文化・ウェルネスを通じ、日本の知恵や手仕事を伝える場を目指している。本講座ではプロジェクト紹介と今後の展望に加え、「むら」で収穫された野菜を使った料理や、「もったいない」の精神を体感できる実践、自然素材を用いた工芸の簡単なデモンストレーションを実施。

村上春樹 夏 帆 The Tale of KAHŌ Haruki Murakami 2026年7月3日 全国一斉発売! 営業時間 月～土 10時～19時 Librairie japonaise JUNKUDO 18 rue des Pyramides 75001 Paris France Tel: 01 42 60 89 12 Mail: contact@junku.fr 新刊案内、アトリエや イベント情報は @JunkuFr

子ども日本舞踊アトリエ

日時: 10月20日(火)及び21日(水) 会場: 小ホール 参加費: 浴衣レンタル付き15€, レンタル無し12€, 学童セッション子ども一人当たり8€
内容: 400年近い歴史を誇る古典芸能である日本舞踊。子ども日本舞踊アトリエはお子さんたちに日本舞踊を五感で体験してもらおうアトリエ。手を膝に背筋を伸ばして先ずはお辞儀から。そして、実際に舞台上で踊る。着物やお稽古道具(扇子、手拭い等)に触れつつ日本舞踊の世界の扉を開けましょう。(講師: 藤岡裕胤)

日本の伝統文化「しめ縄」づくり

日時: 10月23日(金)及び24日(土) 会場: レセプションホール
内容: 日本の正月に欠かすことができないしめ縄飾り。しめ縄の歴史は古く、日本神話までさかのぼります。神話の時代から現代まで受け継がれる日本の伝統文化。今の時代に合わせたしめ縄を作ることで日本人が古くから続けている文化と一緒に楽しみましょう。講師: 河村むつみ

・子ども向けセッション: 11時半及び14時半 参加費 20€/所要時間1時間 対象年齢 4歳以上・18歳未満 (4-8歳のお子様は保護者の同伴が必要です) 約28センチのしめ縄を制作。

・大人向けセッション: 16時半 参加費 40€/所要時間1時間半 お好みの和紙や折り紙を選んで約40センチのしめ縄を制作。

子ども向け「妖怪のお面を作ろう!」ワークショップ

実施日: 10月22日(木) 14時、15時半、17時
会場: 教室2 参加費: 13€
内容: イラスト作家Doria Krioucheの絵本YODORIの世界に行って様々な妖怪たちに出会ってみませんか? 紙皿を使って鬼やキツネといった妖怪のお面を作ってみよう! 6歳以上対象 (8歳以下のお子様は大人の同伴要)

*以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。

【教室】 https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours
囲碁教室 裏千家茶道-茶の湯 裏千家茶道教室 表千家茶道-茶の湯 表千家茶道教室-立礼 日本庭園教室 生花教室 書道教室 日本画教室 布ぞうりワークショップ 折り紙ワークショップ 日本舞踊教室

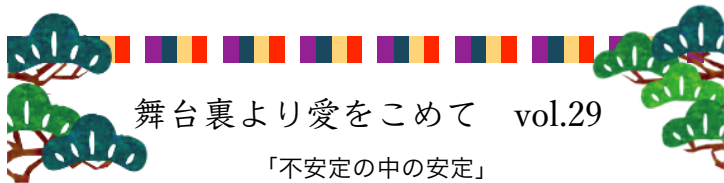
【日本語講座】
http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais

【JFにほんごeラーニングみなと】
https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

火曜日～土曜日、11時～19時 問合せ先: TEL 01 44 37 95 01
所在地: 101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris
http://www.mcjp.fr/
*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

川柳仲間 大募集中!! 日本人会「川柳パリ会」第四十九回選句結果発表! 今回のお題は、「猛暑・梅雨・WC(ワールドカップ)」。初夏らしい風景から世相を切る一句まで、今回も個性豊かな作品が集まりました。ユーモアの中に、ふっと考えさせられる視点が光るのも川柳の魅力ですね。(秀逸) 猛暑日はロングステイの量販店 (せ・ら・び) (二席) 優勝はカタールマナーのニオイする (とらこ) (三席) 年寄りは大事をとって家の中 (碩徳院) ◆最高得点賞 とらこ 受賞された皆さま、おめでとうございます! そして投句・選句していただいた会員の皆さま、今回もありがとうございました。日本人会「川柳パリ会」は、句会を始めてから四年。毎回、笑いあり、共感あり、時には社会風刺ありの、温かな句会を続けています。これまでの句会の様子はこちらからご覧いただけます。 https://zaifutsunihonjinkai.fr/activities/activity/senryu/ また、日本人会「川柳パリ会」では新しい川柳仲間を募集中です。「作るのはちょっと…」という方も、まずは「通りすがりの野次馬」として大歓迎。ぜひお気軽に、過去の句会を覗いてみてください。 リンク: https://ntgm.nolimbre.com/paris/login 柳号: 通りすがり PW: paris75116



舞台裏より愛をこめて vol.29

「不安定の中の安定」



「きみねえ！役者ってえのは、不安定の中の安定、それじゃなきや駄目なわけよお」なーんて、モンマリから何度聴かされてきたことでしょう。不安定ながらも不撓不屈の先に、安定した芸が成立する、と仰りたいのだからけれど。で、わたくしの回答はきまって、こう。「さあらば、経済的な安定はいつ来るのでしょうか…？結婚してこのかた、不安定の連続ですから、そろそろわたくしも安定しようございます…」あはは、きみ、それはねえ、と、またまたご冗談を風に大体笑って流されてしまいますが、ご冗談だなんてとんでもない！わたくしにとりましては切実な本音でございます。

2014年のモンマリによる「君たちはパリへ行け」発令以降、日本とフランスを行き来しながら活動する生活は、決して安定したものでございませぬ、経済的にも後盾無く私財を投げ打ちながらの今日でございます。ところが、どうやらうちのモンマリ、業界内では涼しい顔をさらしているのか、ある能楽師さんより「小笠原さんはもしかして、どこぞの御曹司さんなのですか？日仏を往復してのご活躍、めっちゃ忙しいのでお仕事お願ひ辛いですわ」と…昨今のお仕事減少の根源を聴いてしまったか?!そこはすかさず「いえいえ、日仏往復は火の車ならぬ燃え盛るフライト、是非是非お仕事振って下さいませえ」と営業モード全開。ただでさえ「敷居が高い」と思われがちな能楽界は特にコロナ禍以降、精神論だけでは語れぬほど一部大変厳しい状況になっているのが現状でございます。名家の能楽師さんが飲食チェーン店でアルバイトを始めたり、五十歳を前にした狂言師さんが路線バスの運転手さんへ転職したり、還暦を迎えたモンマリに至っては、生活の足しにと「メルカリ」に着手したり…もちろん、それらの仕事を否定するつもりは全くもってございません。ただ、能楽という日本の伝統文化を守り、次世代へ伝えてゆくのだとの気概を持って、長年厳しい修行を積み、芸を磨いてきたのであれば、やはり檜舞台でその積み重ねを発揮してもらいたい、と願うのでございます。

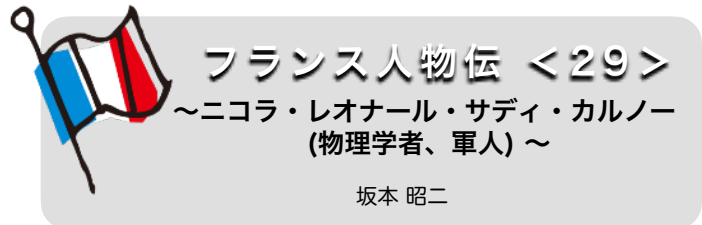
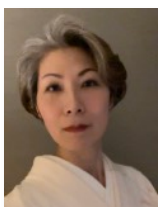
能楽鑑賞者、理解者の衰退も能楽存続危機の一因に…この状況を回復させるには、次世代を担う子供たちへの芸術文化教育が必須であると常々感じております。フランスでは皆さまご承知の通り、芸術が生活のすぐそばにあり、パリの国立劇場では乳飲み子から各年齢に応じたプログラムが存在し、幼少期から舞台芸術に触れる機会が用意されていることを知りました際は、フランスの芸術文化教育に対する底力をまざまざと見せつけられた感がございます。美術館等への学生、第一日曜日入場無料等の制度も充実しており、フランスでは芸術に親しむことが特別なことではなく、日常の一部…この環境が国に厚みを持たせ、結果文化を守る事になるのでございませぬ。

今回のコラム、やや主張じみたテイストに…?!
 なぜならば「不安定の中の安定」を目指すべく「クラウドファンディング」実施の機会を頂戴し、数百名の前でスピーチをさせて頂いてまいりましたその原稿がベースになっているからでございます…伝統文化を守りながら、未来を担う子どもたちがそれらを通して心豊かな感性を育むことのできる社会づくりは大人の役目、パリに暮らす故に日本文化を見つめ直すことが出来たりも致しましょう。パリブランドでやや強気のリターンも含まれておりますが、多くの方と未来を育ててゆけたならば幸いですかな、もしやご支援賜れましたらありがたく「未来の扉 小笠原」でネットご検索のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます！本日はこの辺で。平和への祈りを込めて。

上：日仏芸術文化への国の取り組みについてスピーチ
 下：クラウドファンディング、結果はいかに??
 (クラウドファンディング) <https://www.mirainotobira.jp/projects/ogasawara01>



小笠原尚子 (おがさわらたかこ) プロフィール：
 “やんちゃ狂言師の裏方古女房” 東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。
 現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開?!



フランス人物伝 <29>

～ニコラ・レオナル・サディ・カルノー (物理学者、軍人)～

坂本 昭二

ニコラ・レオナル・サディ・カルノー (Nicolas Léonard Sadi Carnot : 1796-1832) はパリの宮殿 (Petit Luxembourg) で生まれ、父のラザール・カルノーはフランス革命期に国民軍を組織した高名な軍人であり、優れた数学者でもありました。名門に生まれたサディでしたが、当時のフランスは政変が激しく、一家で亡命を余儀なくされることもありました。やがて帰国した父はナポレオン政権の大臣に就任し、サディは幼い頃から父より直接、数学や物理学、語学などの教育を受けて育ち、16歳になるとエコール・ポリテクニークに入学します。卒業後は工兵隊の技術将校として任官しますが、1815年にナポレオンが失脚すると父は再びフランスを追われ亡命します。この政治的激動はサディを次第に軍務から離れて研究の世界へと傾倒させました。



Nicolas Léonard Sadi Carnot

当時、エンジン (蒸気機関) については英国に遅れをとっていましたが、サディは「いかに少ない燃料で最大の動力を生み出すか」という熱効率に関する未解決問題に着手し、1824年、彼が28歳の時に熱と力の間の関係を示す物理理論 (カルノーサイクル) を提唱し、「熱から動力を得るには必ず温度差が必要である」と「熱効率には物質によらない絶対的な上限がある」ことを示しました。残念ながらこの発見はサディ生前中にはほとんど注目されませんでした。サディはその後も研究を続けましたが、1832年に流行していたコレラに感染し、わずか36歳で急逝します。当時は伝染病対策として遺品を焼却処分する決まりがあり、彼の研究ノートの大部分がこのときに灰になってしまいました。

サディの研究成果は、彼の死後の1850～1860年代にかけて、ドイツの物理学者ルドルフ・クラウジウス (Rudolf Julius Emmanuel Clausius : 1822-1888) によって提唱された熱力学第二法則 (エントロピー増大則) の原型となり、「熱は自発的に高温から低温へと移るが、その逆は起こらない」「100%の効率で熱を仕事に変えるエンジンは存在しない」という自然界の法則が明らかにされています。

1824年にサディが提唱した理論はその後のエンジン開発の基礎となりましたが、全く異なる製品開発の基礎原理にもなっています。上述のように熱は放っておくと高温から低温に流れるという自然法則があるのですが、この流れに人為的かつ強制的に逆らう形で、「動力から温度差を生み出す」という逆カルノーサイクルを利用した逆熱機関 (冷蔵庫やクーラーなど) を考えることも可能です。外部から電力などを用いて強制的に動力を加えることで低温から高温へ熱を無理やり抽出し、そして、抽出した熱を (冷蔵庫や部屋の) 外部へ排出すると、冷蔵庫やクーラーとして機能します。従って、(熱から力を引き出す) エンジンと (力から熱を引き出す) 冷蔵庫やクーラーは一見全く異なる機能を持つ製品ですが、これらは共にサディが発見した熱と力の間の物理理論の上に成り立っています。

(画像はwikipediaより引用)

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談(会員のみのみ)

*要予約(電話に限る): 01.53.76.17.58

法律相談(フランスの法律問題)(手配料5ユーロ)

事前予約の上、電話で相談を受け付けます。

法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

健康相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

無料子ども相談室

臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「子ども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会

有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。

代表 眞田美佐子 連絡先 sanadamisako@yahoo.fr

子ども図書館

読み聞かせ 毎月第1および第3水曜日 11h30~13h00。7月8月はお休みです。

日本語児童図書の出貸・返却は随時。永年登録料: 子供一人/2ユーロ

女声コーラス「みもざ」

コーラス仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13:30~16:00、Notre Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte Maillot) <https://mimosa-club-japon.jimdosite.com/> を参考に。連絡TEL 06.33.89.56.59(石原) メール:mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ(NAC)

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の18h頃~20h頃、オペラ界隈のカフェTabac Le Ventadour 46, rue des Petits Champs 75002 Paris、あるいはカフェDalayrac 2, rue Dalayrac 75002 Paris に於いて月例の親睦会を開きます。飲み物代は自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。問い合わせは日本人会まで。

親睦会は、8月はお休み、次回は9月1日です。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h~17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs 75001 Paris 第3日曜日&第4水曜日14h30~国際大学都市「日本館」で月例会。

ホーム訪問、講演会、新年会、希望祭参加、郊外農園バーベキュー大会、バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。

会報を年3回送付。年会費20ユーロ

連絡TEL: 06-5170-4955(二口) 06-2253-7418(六藤)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。連絡:実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant : 32 Bd. Lannes 75016 Paris)

●キッズテニス

小学生から高校生 毎週火曜日(現地校のバカンスを除く)

火曜日4クラス 17時と18時 小学校低学年から高学年生

ただいま、若干空きがあります。年齢とレベルによりクラスが決まりますので、メールにてご相談ください。

●一般クラス 随時会員募集

初心者クラス、経験者クラスがあります。

火曜日 19時 金曜日 10時と11時

個人、グループでのレッスンをお受けします。

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

書道同好会

*COMPLET 現在空きがございません。

毎週木曜日 15h~17h 参加費: 月20ユーロ

講師: 林 信賢

TEL 代表: 06 22 53 74 18 国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室

水曜日14h00~17h00 土曜日13h00~17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39(中村)

シャンソンDidier教室

日時: 第2・第4土曜日(16時~18時)

場所: Pavillon de la Sirène

20, rue Dareau 75014 Paris M^oDenfert-Rochereau

詳細は下記にお問い合わせください。

ch.tanaka@orange.fr Tel. 06 0383 2674(田中)

気功教室

毎週木曜18h30~19h45全レベル参加歓迎

会場: 天理文化センター 8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

最寄駅 Châtelet 参加費: 1時間 9ユーロ(日本人会会員割引あり)

気功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理

の知識等も指導。講師/連絡先: ラン光旭(パリ第6大学医学大学院気功・太極拳

講師) TEL: 06-69-43-54-45 メール: yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレクション/現役モデルによるウォーキング・写真のポージング・メイキャップ・Before & Afterなどニーズに合わせたプライベートレッスン(コース3回・180€/3h) プロ志望の方、カウンセリング、Zoomオンラインも可能(非会員: 別途料金)

詳細はお問い合わせください。facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

講師: 北幸子(所属: Paris: Master Models, Tokyo: Oasis Styling)

日本館茶の湯会(裏千家流)

於国際大学都市日本館 7月8月はお休みです。

稽古日 金曜日(14時半~17時半) 月二回

土曜日(13時~16時半) 月二回

(特別企画) 親子茶会和の学校

年会費 25ユーロ・稽古参加費 一般 25ユーロ

連絡先 nihonkan.cyanoyu@gmail.com

chakaimomoe@gmail.com(親子茶会和の教室専用)

成人学習者向け日本語講座

*現在活動休止中

ヨガ教室 個人レッスンとオンラインレッスンに加えて、今春からグループレッスを再開しました。詳細はメールにてお問い合わせください。

日時: 平日午後を中心に参加者のみなさまのご都合に合わせて

会場: パリ市内 対象者: 全てのレベル 参加費: 1時間30€から

講師: ラロッシュ・アメリ

問合わせ・申込み: info@vacances-amelie.com(日仏)

川柳パリエ

インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな句会を中心とした活動です。川柳をネット上の句会に投げたり、他の会員の川柳を楽しんだり、優秀だと思う作品を選句して参加することが可能です。

連絡先: 代表 石井 宏 parisici@yahoo.co.jp

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/>

amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>

日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランポラブロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS

TEL.01.53.32.20.00 まで

FAX.01.42.85.04.65



Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュネオ
会友)
当会フランス語講座講師
1978～98年日本に滞在
元上智大学講師

M- サン＝テグジュペリ (Antoine de Saint-Exupéry) *をご存知ですか?
E- もちろん!彼の著書『星の王子さま』(原題 Le Petit Prince) **は世界的なベストセラーで、日本でも非常に有名で愛されています。
M- しかし、サン＝テグジュペリの作品は子供向けの素朴な物語だと誤解されがちです。
E- では、サン＝テグジュペリの考えを理解するにはどうすれば良いのでしょうか?
M- 『風と砂と星』(原題 Terre des hommes) ***を読んでみてください。
E- その本のテーマは何ですか?
M- サン＝テグジュペリは、飛行機が非常に危険で、多くの人が事故で命を落としていた時代に、初期の飛行機パイロットたちの勇敢さを描いています。
E- 確かに『星の王子さま』は砂漠での飛行機事故から始まります。
M- 『風と砂と星』は、何よりもまず、初期の

航空界の英雄たち、特にアンリ・ギヨメ (Henri Guillaumet) ****へのオマージュです。サン＝テグジュペリは、友人のギヨメが飛行機事故で皆が死んだと思った時に、いかにして生き延びたかを語っています。

E- 砂漠での墜落だったのですか?

M- いいえ、冬の凍てつくアンデス山脈での事故でした。

E- 彼はそこで何をしていたのですか?

M- これらはフランス、アフリカ、南米を結ぶ最初の郵便ルートでした。飛行機もラジオも天気予報も、今ほど信頼できるものではありませんでした。

E- では、事故は頻繁に起こっていたのですか?

M- ええ、でもパイロットたちはとても勇敢でした。事故の後、ギヨメは氷に覆われた山を下り、平原を目指します。何度も疲れ果て、凍えながら、諦めて雪の中で死にたい衝動に駆られます。しかし、そのたびに、ある思いが頭をよぎります。

「妻は私を信じてくれている。妻は私が生き延びるためには歩いていると信じている。だから、もし諦めたら、私はろくでなしだ!」仲間たちも私を信じてくれている。そうして彼は勇気を奮い起こし、雪と寒さの中を一歩ずつ進み始めました。

E- つまり、妻と仲間への並外れた忠誠心によって、彼は耐え抜いたのですね。

M- ええ、5日間4晩、眠らずに。なぜなら、彼はこう考えたからです。「眠ったら、二度と目が覚めない!」ついに彼は村にたどり着き、サン＝テグジュペリをはじめとする仲間たちが迎えに来ました。そして彼は、この忘れられない言葉を口にしたのです。「私が成し遂げたことは、誓って言いますが、どんな動物も決してできないでしょう。」

E- パスカルが言ったように、人間の偉大さは、思考と心によって明らかになるのですね。

*サン＝テグジュペリ (Antoine de Saint-Exupéry) : (1900-1944)フランス・リヨンに生れ。兵役で航空隊に入る。除隊後、航空会社の路線パイロットとなり、多くの冒険を経験。1944年7月、フランス本土偵察のためコルシカ島ボルゴ基地から出撃後、未帰還となった。作品に『南方郵便機 (Courrier Sud)』(1929)『夜間飛行 (Vol de nuit)』(1931, フェミナ賞)『人間の大地 (Terre des hommes)』(1939, アカデミー・フランセーズ小説大賞)などがある。

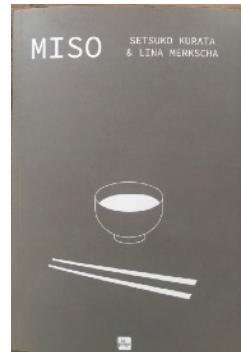
**『星の王子さま』(原題 Le Petit Prince) : 1943年アメリカで出版されたサン＝テグジュペリの小説。日本では岩波書店が作品の翻訳権を保持し、内藤濯訳が長年重版されたが、2005年1月に翻訳出版権の消失にともない、多くの新訳が出版されている。

***『風と砂と星』(原題 Terre des hommes) : 1939年フランスで出版されたサン＝テグジュペリの小説。『人間の大地』(Terre des hommes) の英語版がアメリカで発行されたときのタイトル『Wind, Sand and Stars』の邦題で、『人間の大地』と同じもの。

****アンリ・ギヨメ (Henri Guillaumet) : (1902-1940)フランスの飛行家。1940年11月27日、シリアに向かう途中、地中海上でイタリアの戦闘機によって撃墜された。敵機と誤認されたと見られている(当時フランスはヴィシー政権下にあった)。



日本の四季のレシピをフランスで



味噌の本の出版依頼を受けた時、ちょうど、娘の日本からの大学生の友達6人が、パリ滞在中で、家でラクレット、おいしいワイン、生ハムなどを楽しんでいました。食後に、「味噌汁いる?」と聞いた時、全員が即座に手を挙げ、一口食べた瞬間、目をつぶり、「おいしー」と、しみじみと食べてくれました。どんな豪華な食事でも、一杯の味噌汁の力は心に、体に、深くしみわたります。本を書くにあたり、100人の高齢者の方たちにも 味噌を使ってどんな料理があるか聞きました。一番は、味噌汁。茄子とピーマンのしんやき、味噌味。皆さん、笑顔で答えてくれました。私たち日本人のDNAの中には、味噌が確実に生きています。出版社のGARANCEとは、東京で知り合いのフレンチレストランのシェフに、味噌を使って前菜、メイン、デザートと作ってもらいました。大学生達、高齢者の方達、出版会社の方、私の心をみんなが一杯の味噌汁のようにあたたためてくれました。味噌を通して、多くの方のあたたかさをたくさん頂きました。日本人として、いつまでも大切にしたい味噌の魅力をお伝えできればと思います。

里奈から

HACHETTE PLAGES社からお声がけ頂き、味噌を使った50のレシピを紹介する一冊の本、私にとって美しい旅の始まりでした。味噌は、私のキッチンに欠かせない食材です。味噌を加えるだけで、どの料理もおいしくなります。たんぱく質、ミネラルが豊富で、抗酸化作用もあり、腸内に良い微生物をもたらし、心身全体の健康を支えてくれます。私にとって、味噌はそれ以上の存在です。幼少時から親しんできたこの食材は、私の心と体を深く満たしてくれます。味噌を頂くことで、自分のルーツや、母なる大地とつながる感覚を覚えます。味噌には、私たちの祖先の記憶、生きるために生まれた安心感、ぬくもり、そして癒しが入っていると感じます。この本を通して、味噌の魅力をもっと深く味わい、皆様と共有できることが幸せです。



J'espère que vous apprécierez autant ce livre que moi et qu'il vous parlera et honorera, autant que possible, la place essentielle du miso dans la culture culinaire japonaise. Merci beaucoup Setsuko-san, Lina-san pour votre travail.

Garance DUCOL
Edition la plage

倉田 節子・フィエベ 里奈

インスタグラム: @lina_fievet ウェブサイト: linafievet.com
著書『LA TRADITION DU VEGETAL(éditions la plage)』の購入は一般書店及びeBookで
<https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon>





終(ついに)のデザインのススメ

己の最後を決めるための 日本における相続・遺言の基礎知識(73) (日仏間も視野に入れて)

フランスの相続、「相続人がいないとどうなる？」

— succession vacante のDX —

前回は、日本の相続の「入口」にあたる名寄せ制度について取り上げました。全国レベルで不動産登記のデータがつながり、相続人が「どこにどんな不動産があるか」を確認しやすくなるという、相続実務のDX化が一歩進んだところです。

一方フランスでは、相続の「出口」にあたる場面——相続人がいない、または全員が放棄した場合の“succession vacante”について、DX化が2025年から加速しているようです。財産の所在管理や公示がオンライン化され、国が行う相続財産の管理プロセスがデジタルで追跡できるようになったとのこと。

日本とフランスで、相続の入口と出口との違いはありますが、どちらも「相続制度のDX化」という共通の流れの中にある改革です。これを今回は見てみます。

◆ succession vacante とは？

相続が“vacante”（空位）とされるのは、主に、①相続人が誰もいない、②相続人が全員 renonciation（相続放棄）した、との状態で、③相続開始から6か月経過しても、財産の管理者が存在せず相続財産が放置されている場合です。この場合、裁判所がまず「空位相続succession vacante」を宣告し、フランスの国税庁(DGFIP)傘下にある国有財産管理部門『Domaines』が、公的な財産管理人(Curateur)として指名します。対象となる財産は不動産だけではなく、預貯金、証券、動産、車、債権など、相続財産の全部(universalité de la succession)が管理の対象になります。

◆ フランスのDX化(制度の構造と日本との違い)

フランスでは、裁判所が「空位相続succession vacante」を宣告したあと、財産管理の実務を、全国共通でDomaineが一括して担当する仕組みになっています。

日本でも、相続人がいない場合には、各地の家庭裁判所が相続財産管理人を選任し財産目録の作成、債務弁済を経て、最終的に財産は国庫に帰属します。日本の相続財産管理人は、各相続の事件ごとに弁護士等や司法書士が管理人として選ばれます。これに対して、フランスの制度は、管理主体が全国で一画化されており国として統一のデジタルプラットフォームを整備しやすい構造になっています。

◆ フランスでDX化をやるしかない理由

フランスでも高齢化や単身世帯の増加により、相続放棄や相続人不在のケースが年々増加しています。フランスの年間の死亡者数は、だいたい65万人程度に対して、不動産を含む重大案件としてのsuccession vacanteの件数は、2022年が4,217件だったのが、年々増加し2025年は6,718件(予測値ベース)と、かなりのペースで増加しているようです。軽微(不動産なし案件)も含めると、年間数万件に及び「身寄りのない遺産」を紙ベースで処理することは難しく、業務の効率化のためにもDX化が不可欠となっているとのこと。こうした背景から、2025~26年の改革では、財産目録や売却情報のオンライン公示、利害関係人のオンライン申請、進行状況のデジタル追跡など、相続財産管理のプロセス全体がデジタル化。背に腹は代えられないDX化ですね。

◆ 2025~26年のDX化の概要

①オンライン化(2025年1月~): 相続人や債権者は、Portail des successions vacantes(専用ポータル)から手続が可能になりました。書類提出や進行状況の確認もオンラインで完結。

②公示方法の改革: これまでの公示は、JAL(Journal d'annonces légales/官報的な新聞)に散発的に掲載されるだけで、情報が散逸し、追跡が困難でした。近時の法改正等により、Domainesの公式サイトで一元的にオンライン公示され、管理人選任、財産目録、売却情報などが容易に確認できます。透明性が飛躍的に向上し、潜在的相続人や債権者がアクセスしやすくなりました。

◆ 在仏のみなさんにとって大切なこと

上記のとおり、フランスでは、死後、財産が放置されていると、速やかに知らないうちにsuccession vacanteとして国による管理が開始されるようで、個人の権利主張が非常に複雑化しがちです。それだけでなく日仏をまたいだ相続等は困難になりがちです。生前に、財産の所在を確認・整理し、遺言で意思を示しておく、そして、誰かにキッチンと伝えておくことがますます重要と言えるでしょう。



連載

フランス生活 養生訓



第32回 「アジア食材店に行かなくても作れる和食」

みなさん、こんにちは。

日本人会会員のみなさんの中には『在仏歴が短い』『パリ在住ではない』という方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

以前よりは比較的簡単に日本食材が手に入るようになりましたが、まだまだ日本食が食べたくても見つからず困っているのでは…と、先月邦人健康サポートの会(<https://kenko-support.fr/>)にて、Zoomのおしゃべり会を開催しました。テーマは『アジア食材店に行かなくても作れる和食』そこで参加者の方にお話しした情報をこちらでもシェアしたいと思います。

①食材が見つかるお店

◎大手スーパー(特にHyper marchéや、Grand Fraisという生鮮食材チェーン店→大根、白菜、かぼちゃ、ジャポニカ米(Riz rond含む)、醤油、ごま油など

◎アフリカ・インド系商店→オクラ、カレースライス など

◎Bioショップ→野菜類、椎茸、調味料系、昆布やワカメな塩蔵冷蔵系、我が街のBioショップは一時期水菜も取り扱いがありました!

◎冷凍食品専門店(特にPicard)→穀剥き枝豆、枝豆、魚類 など

②魚が食べたい!スーパーの鮮魚売り場でも安価に手に入るもの

→鯖(Maquereau) イワシ(Sardine) 鰯(Chinchard) 捌くのが一手間な場合は、鯖の水煮缶詰(Nature)や、イワシの缶詰ノンオイルのもの(Nature ou grillée)を活用できます。

(レシピ例1: 水気を切った鯖にスライスした玉ねぎやきゅうり・トマトなどを好みで乗せ、上から酢醤油的なドレッシングを掛けてさっぱりと)

(レシピ例2: 水・白ワイン・醤油・砂糖・水溶き片栗粉もしくは水溶きコーンスターチを軽く煮詰めタレを作りイワシまたは鯖を絡ませて蒲焼風に)

また、冷凍アラスカ鮭もSaumon rose d'Alaskaとして冷凍コーナーや缶詰で購入できます。Hyper marchéでは頭を取った丸一本のものを購入できる場合もあり、価格も10€/kg前後。ノルウェー産より安い上に、天然なので身も脂でヨボヨボしていません。

冷凍食材店のPicardも本当に便利で、少しお値段は張りますが、ホタテの貝柱(Noix de Saint-Jacques)を解凍してお刺身で食べたり、手巻き寿司の具に使ったり、マグロ(Thon albacore)も漬けてお寿司の具にしったりして食べています。

また、こちらのイカの足(Morceaux de calmar géantes cuits surgelés)も解凍して薄切りにし、きゅうりやわかめと合わせて酢の物にできますよ。

③出汁

日本からのお土産に頼りがちですが、おすすめは貝を茹でる際の汁を冷凍しておくことです。Palourde、Bulot vivantやCoque、Mouleでも美味い出汁が取れます。イタリア食材店ではボンゴレ(Bongole)が冷凍コーナーに置いてあることもあります。

④米酢や穀物酢の代用→りんご酢、白ワインビネガーで!お寿司もOKです。

⑤玄米の美味しい炊き方

BIOショップで見つかる玄米、健康のために玄米食べたいけれど、うまく炊けないという方…私自身も何度もLe Creusetのような鉄鍋で炊いたのですが、長時間水に浸けてもどうしても芯が残るような感じでうまく炊けない…そこで辿り着いた炊き方が圧力鍋!

材料: 玄米3合(450g)に対して水750ml(できれば軟水)、粗塩1つまみほど、浸水時間なし!

我が家はInductionで10(Boost)まであるタイプのコンロです。

1. 玄米を洗いザルにあげて水を切り、圧力鍋に入れ水も750ml入れ、塩も入れる
2. 最初は弱火(火力3)で30分、その後Boostにして沸騰したら中火(6)に下げ20分圧を掛ける(蒸気がシュンシュンしなくても大丈夫です、逆に焦げに注意)
3. 火からおろし10分ほど蒸らし圧も抜けたら食べられます。

日本食材探しはあまりハードルを上げずに、近くのスーパーや商店をパトロールしてみると、意外なところに見える食材は潜んでいます。是非この機会にご近所を探してみてくださいね。



司法書士 桑瀬 登起子(くわせ ときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202



小椎尾 真衣(こじお まい)
Diététicienne-Nutritionniste / 管理栄養士
Instagram
<https://www.instagram.com/diet.japonaise/>
(日々の食生活をゆるーり綴っています)

【御礼 日本祭り】

日本祭りへのご来場・ご協力、誠にありがとうございました

5月24日(日)に開催いたしました「日本祭り」は、好天にも恵まれ、たくさんの皆様にご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。

ご来場くださった皆様に、心より御礼申し上げます。

また、魅力あふれるブースやスペクタクルを通して会場を盛り上げてくださった皆様、運営を支えてくださったボランティアの皆様をはじめ、本祭りの開催にお力添えをいただいたすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

さらに、賞品等をご提供くださった皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。

賞品等ご提供：虎屋フランス、Carrée Pain de Mie、

片川喜代治氏、本庄谷芳男氏

開催協力：パリ国際大学都市日本館、日本トランスユーロ

主催：在仏日本人会
(日本祭りサイト)

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/activities/kibousai/>

日本人会ココロの相談窓口 9月から再開

【毎月第1月曜日】

臨床心理士による月1回の無料の「日本人会ココロの相談窓口」が、9月から再開されます。

毎月第1月曜日が相談日となります。

相談日：9月7日(月)、10月5日(月)、11月2日(月)、
12月7日(月)

以下担当して下さる心理士の方からのご案内です。

「ココロの相談窓口」は、心の問題、お悩みにフランス在住の日本人臨床心理士が日本語でメンタルケアサポートをさせていただきます。

(フランス国家認定臨床心理士：浅川順子、藤堂史恵、山田ちあき)ご家族、お仕事、人間関係、夫婦関係、フランス生活、親子(小学高学年以上のお子様)の問題で、どこに、誰に相談したらいいのか、フランスではどのようなサポートを受けられるかなどのお話を、臨床心理士が直接対応致します。

相談のみを伺う通常の心理カウンセリングとは、相談時間が短い事と対面のカウンセリングではない為、多少異なりますが、初めてのメンタルサポートとして、是非ご活用ください。

-相談は一回限定で30~45分となります。

(電話あるいはオンライン)

-相談をご希望の方は以下のGoogleフォームから直接お申し込みいただき、相談時間のアポイントをとってください。

(お名前は苗字だけを伺う形になります)

<https://forms.gle/Ptti856WS1yCo1Db9>

-後日、担当心理士の方からご連絡させていただきます。

-人数に限りがございますので、お早めにお申し込みください。

-ご相談は日本人会会員に限ります。-乳児、幼児の発達相談ではありませんのでご注意ください。

グローバル時代のコミュニケーション

~国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション~

【第55回】

みなさまこんにちは。

2026年も折り返しを過ぎ、日本では本格的な夏を迎えようとしています。日本でもちょうど今サッカーワールドカップが盛り上がっています。日本は決勝トーナメント1回戦でブラジルに敗退しました。フランスはこれを書いている7月2日現在順調に勝ち進んでいますね！パリでも盛り上がっていると思います。スポーツの戦いは良いですが、戦争はいけませんね。お互いを理解し合い、よい関係を築いていきたいものですね。

さて、前回まではNLPの土台となる「7つの前提」についてお話ししました。その中で、「地図は領土ではない(私たちが認識している世界は、現実そのものではない)」という前提をご紹介しました。

では、なぜ私たちは現実を「ありのまま」に見ることができないのでしょうか？それは、私たちの脳が現実の情報を勝手に「編集」してしまうからなのです。

脳は、現実を勝手に切り貼りする「編集者」

私たちは日々、五感(視覚、聴覚、身体感覚など)を通して、途方もない量の情報を受け取っています。もし、そのすべての情報を脳がすべてを真面目に処理しようとしたら、あっという間にパンクしてしまいます。そこで脳は、自分が生きていくために「都合の良い情報」だけを選び取り、独自のルールで現実を「編集」します。まるで映画の監督が、膨大な撮影テープから不要なシーンをカットし、「予告編映像」を作るようなものなのです。その作業に使われるのが、次の「3つの強力なフィルター」です。

1 削除(Deletion)は、特定のことに意識が向いている時や、自分にとって都合の悪い現実がある時に、その他の情報を脳が無意識にスルー(消去)してしまう機能です。

例：「このプロジェクトの計画は完璧だ」と自分が強く信じている時、部下が見せている「戸惑いの表情」や、現場から上がってくる「小さなスケジュールの遅れ」といった(自分にとって都合の悪い)情報を無意識に「削除」してしまい、「全員が納得して順調に進んでいる」と思い込んでしまうケースです。本当は目の前にトラブルの種(現実)があるにもかかわらず、です。

2 歪曲(Distortion) 事実を自分の過去の経験や思い込みに合わせて、意味を「ねじ曲げる」機能です。

例：職場で部下が「はあ」と大きなため息をついたとします。この「ため息をついた」という事実に対して、「私のマネジメントに不満を持っているんだ」「仕事量が多すぎると暗に責められている」と意味をねじ曲げてしまうケースです。本当は「ひと仕事終えてホッとした」ため息や、単なる「寝不足」かもしれないのに、事実を歪曲して受け取ってしまうのです。

3 一般化(Generalization) たった1~2回の経験を、「いつもそうだ」「すべてそうだ」と普遍的なルールにしてしまう機能です。

例：頼んでいた資料の提出が2回遅れた部下に対して、「彼はいつも締め切りを守らない」「フランス人は誰も時間を守らない」と結論づけてしまうことです。時間通りに出してくれたこともあったはずですが、脳はそれを忘れ、「いつもそうだ」と一般化してしまいます。

編集に気づけば、心は軽くなる

いかがでしょうか。私たちは誰一人として「現実のフル映像」を見ていません。それぞれが自分のフィルターでカットし、加工した「自分だけの編集映像(地図)」を見て生きているのです。

コミュニケーションで脳が勝手に行ってしまうこの削除、歪曲、一般化は、ミスコミュニケーションの根源になっています。

「私は今、うまくできている部分を削除していないだろうか？」

「相手の言葉を、悪い意味に歪曲して受け取っていないだろうか？」

「たった数回の出来事を、『いつもそうだ』と一般化していないだろうか？」

この「自分のフィルターに気づく」ことこそが、人間関係、コミュニケーションでのストレスを手放す素晴らしい第一歩になります。

今回は、この「編集された情報が『感情』や『行動』に変わる瞬間(2次体験)」についてお話しします。

感情は外からやってくるのではなく、自分自身が過去の体験から作ってしまう・・・このようなお話をしたいと思います。(続く)

大山裕之 コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

【64】

ブロワの街とドゥニ・パパン



Denis Papin (1647-1712頃)



ブロワ・シャンボール駅正面(部分)

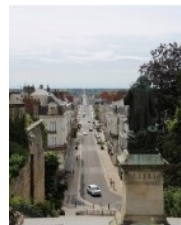
久しぶりのSNCFブロワ・シャンボール駅は駅舎が改装されていて好印象。今日は城脇にある観光案内所でもらった市街地図を頼りに市内散歩と決め込む。ユゴー広場から出ているポルト・コテ通りを左折し狭い坂道に入るとサントノレ通りとあるので、昔ながらの道路なのだろうと推測する。そしてすぐ左手に

瀟洒な16世紀風の建物が現れた。アリユイ邸である。この建物はフランス王国財務官で3代に渡るフランス王の秘書を務めたフロリアン・ロベルテが1500年に建てさせたルネッサンス様式の館。現在は民間所有の住宅となっており内部見学はできないのが残念だ。更に坂道を進むと左下の写真のような見晴らしの良い風景が現れた。



アリユイ邸

まるで階段の天辺にあるブロンズ像が南を向いてロワール河に架かるガブリエル橋を見下ろしているかのようである。そしてこの像はドゥニ・パパンで、ブロワ生まれの物理学者・発明家である。



階段上部からの眺め

ドゥニ・パパンは1647年にブロワ郊外のプロテスタントの富裕家庭で産声を上げた。地元で中等教育を修了したドゥニはアンジェの大学へと進み医師の資格を取得するが、物理学に対する関心も強く、パリへ赴きオランダから来ていたC.ホイヘンスの助手となる。その後ドゥニは1675年にロンドンに渡りR.ボイルの助手の職を得る。おそらく当時からプロテスタント信徒達にとってはカトリック色の強いフランス王国は住みづらい環境になって来ていたのだろう。彼は1679年に「ディ

ジェストゥール(圧力釜の先祖)」（この装置は先このブロンズ像の右足元に置かれており、長い円筒形の鉄製容器の上部には鉄製の蓋と安全弁が付いている）を発明した。この装置を使えば少ない燃料で動物の骨や固い肉などを短時間でゼリー状にすることが出来た。ただ彼には商売気が無かったようで、この発明が商品になる事は無かった。それよりもドゥニは蒸気を利用した動力機関の研究に熱心であった。そしてこの発明から300年近くの時を経てフランスのSEB社が1953年に「ココット・ミヌット(登録商標)」という名前前で圧力釜を売り出すと、その便利さ故に着実にフランス中の家庭に広まっていった。



ドゥニ・パパン像

ドゥニ・パパン像に別れを告げてさらに坂を進むと正面にはサン・ルイ大聖堂が姿を現した。この大聖堂が作られた17世紀後半にはブロワの街の人口もそれほど多くなかったのであろう。こじんまりとした大聖堂だ。この広場前には木組作りの3階建ての家がありアクロバットの家という名前。特に正面上部にある小さな木彫が面白い。まるで旧約聖書に出てきそうな女性がリングを手を持っているのだ。そしてこの家に使われている木材の年輪年代分析によれば1470年代の建築だという。ブロワに現存している家の中でも最年長らしい。この家の前の狭い道を下って行くと、先ほど見えたガブリエル橋へ続く道路に出る。ドゥニ・パパン通りとある。19世紀後半の都市改造で造られた道路のようだが、現在ではブロワの街のメイン・ストリートとなっている。



サン・ルイ大聖堂

この道路を横切り、嘗ては貴金属商や高級時計職人のアトリエのあったオルフェーブル道りを抜けてルイ12世広場に到着。この広場にあるルイ12世フォンテーヌからはチョロチョロとしか水が出ていない。右手に進むと大きな階段が現れた。サン・マルタン階段だ。この日は暑かったので階段を敬遠しトロワ・クレ(大きな3つの鍵が



ドゥニ・パパン階段

路上に立っている) 通りを抜け再びパパン通りに出ると巨大な「ドゥニ・パパン階段」が左手に見えて来た。先ほど上から見た階段だが、やはり下から見上げるように作られたものだと気づくとともに、19世紀後半になってブロワの街が地元出身の才人に捧げたオマージュなのだとな得する。今では階段全体に装飾(毎年変わるらしい)が施され華やかな雰囲気醸し出している。散歩の後昼食を摂り駅へと向かうと、朝到着した時には気が付かなかった「パッスレル」と呼ばれる円筒形の建築物と歩道橋が駅舎の右手に見える。線路を飛び越えて北側の高台に繋がる歩道橋に接続しているこの円筒形建築物の内部はスロープになっていて、それを2回転して上部の歩道橋に繋がる構造である。まるでアンボワーズ城のミニムの塔のようだ。ただミニムの塔は乗馬したままスロープを登るとお城のテラスに出られる訳だが、このパッスレルは歩行者と自転車(鉄の馬?)専用である。こんな新しい建築物にも15世紀の城建築のアイデアが生きているのかと、改めて歴史を学ぶことの大切さを感じたひと時であった。



アクロバットの家



パッスレル

フランス政府公認ガイド 小林 京二



鈴蘭の小さき鐘の響きあふ	透きとほる薫風に背を押されけり	七変化花火のやうに誇り咲く	薫風に乗りに行かふか風任せ	晴れ晴れと白紫陽花に魂あづけ	新緑や嗚呼新緑や我八十路	渇く喉麦酒の時の来たりけり	母の日に我が身の長寿願ひをり	紫陽花に水滴光る雨あがり	薫風に誘はれ歩くセーヌ沿	心入るひそやかさなり花南天	でで虫や我が庵なりと葉にのたり	手のひらをそつと結べば蜚棲む	白あぢさゐ病む子の頬のひと滴	薫風や君の香りの遠退きて	薫風や心の隙を満たす言
--------------	-----------------	---------------	---------------	----------------	--------------	---------------	----------------	--------------	--------------	---------------	-----------------	----------------	----------------	--------------	-------------

自選句集 162

(入会順)

純子	純子	美佐子	美佐子	佳久子	佳久子	容子	容子	春代	春代	なをみ	なをみ	万里	万里	勝義	勝義
----	----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	-----	-----	----	----	----	----

日本人会フランス語講座 2026年9月～12月

月		火		水		木		金	
9:45-12:00 A1 1 Laurent	10:00-12:15 入門_2 4 Florence	10:00-12:30 B2+ 5 Muriel	9:45-12:00 A2 10 Laurent	10:00-11:00 発音マスター1 17 Muriel	9:45-12:00 A2 14 Laurent	9:45-12:00 入門_3 16 Laurent	10:00-12:15 入門_4 24 Florence	9:45-12:00 A1+/A2 30 Laurent	9:45-12:00 B1 20 Muriel
12:30-14:45 A2+ 2 Florence	12:30-14:45 A1+/A2 34 Laurent	12:30-14:45 A2+ 9 Muriel	13:00-15:15 A1 11 Laurent					13:00-15:15 A1+/A2 35 Muriel	12:30-14:45 入門1 NEW! 31 Laurent
	17:15-18:45 DALF C1 6 Muriel		17:15-18:45 DELFB2 12 Muriel	17:15-18:45 DELFB1 15 Muriel		17:00-17:45 KIDS 29 Laurent	17:15-18:45 DELFA2 19 Muriel		
19:00-20:30 入門_1 NEW! 25 Laurent	19:00-20:30 A1+/A2 7 Muriel	19:00-20:30 入門_4 28 Laurent	19:00-20:30 B1/B1+ 33 Muriel	19:00-20:30 入門_3 26 Laurent	19:00-20:30 A1+ 27 Muriel				

オンライン 日本人会 教室

日本人会では、9月14日（月）から始まる9月～12月期のフランス語講座の生徒を募集しております。

- ・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。
- ・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。（教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数での効果的学習が可能です。オンライン授業にはTEAMSを使用いたします。）
- ・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。
- ・今期新設のクラス：はじめてフランス語を学習する方向けのクラスを新設いたしました。

■金曜12時30分～14時45分 入門_1（教室クラス） ■月曜19時～20時30分 入門_1（オンラインクラス）

- *入門1のお試し受講は授業進行上の都合から第2回目までとさせていただきます。（その他は残り8回前まで）
- ・DALF対策講座は Muriel NAVARRO講師（DELFB認定官）による試験対策講座です。一般の語学学校では不可能な、日本人が間違えやすい点を徹底指導。非常に高い合格率を誇ります。DELFB/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。
- ・日本人会のフランス語講座は18歳以上が対象です。/KIDSクラスは小学生以上が対象です。
- ・お一人2クラスまで体験受講（違うクラスを2つ。同じクラスを2回ということではありません）をしていただけます。/日本人会会員でない方も体験受講は可能です。
- ・途中入校も可能ですが（その場合、料金は回数割で15%割増）残り授業数8回以降になりましたら無料体験および途中入校はできませんのでご了承ください。
- ・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。
- ・講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合がございます。
- ・日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限ります。

フランス語レベル目安 は以下のリンクよりご覧ください。
https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf

日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業
 Mme Florence MEHRVAR
 Mme Muriel NAVARRO
 M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは下記リンクよりご覧ください。
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-81580/>

問合せ・申込：
 Tel. 01 53 76 17 58
 coursfr.ajf@gmail.com

目次

「みもぎ」40周年コンサートのご報告—	1-2	日本の四季のレシピをフランスで—	8
新刊紹介—	2	終（つい）のデザインのススメ—	9
補習校だより—	3	フランス生活養生訓 第32回—	9
出版案内—	3	お礼・日本祭り—	10
パリ日本文化会館事業案内—	4-5	日本人会ココロの相談窓口—	10
日本人会「川柳パリ会」—	5	グローバル時代のコミュニケーション—	10
舞台裏より愛をこめて vol.29—	6	場所と人の出会い <64>—	11
フランス人物伝 <29>—	6	ふらんす俳句会—	11
日本人会活動案内—	7	日本人会フランス語講座—	12
フランス歴史散歩道—	8		

日本人会会報 Journal Japon
 年6回発行：第51巻4号（通巻320号）
 発行人 片川 喜代治
 編集人 高橋 幸隆
 レイアウト 杉山 清美
 発行 在仏日本人会
 Association des Japonais en France
 (旧) Association amicale des ressortissants japonais en France
 9, Av.Marceau 75116 Paris
 TEL: 01-53-76-17-58
 月～土 du lundi au samedi 9:30-12:30 /13:30-17:30
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/> contact@nihonjinkai.fr
 *サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを
 閲覧する際のパスワード：heian2020
 *本誌の無断転載を禁じます